岩盤ボーリング柱状図

調　　査　　名　畠敷地区　急傾斜地崩壊対策事業に伴う業務委託（交付金）

事　業　・　工　事　名

調査目的及び調査対象　その他　構造物基礎

ボーリング名	R2B-5	調査位置	広島県三次市畠敷町	北緯	34° 48′ 52.5036″
発注機関	広島県北部建設事務所	調査期間	令和2年12月 7日～ 令和2年12月 8日	東経	132° 52′ 36.3187″
調査業者名		主任技師		現場代理人	コア鑑定者 / ボーリング責任者
孔口標高	TP 170.19m	角度	180°（上）〜 0°（下）、90°	方向	北 0°、90°東、180°南、270°西
総削孔長	4.00m	地盤勾配	水平 0°、鉛直 90°	使用機種	試錐機：東邦D-0型 / エンジン：ヤンマーTF120M / ポンプ：東邦製BG-3

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	工学的地質区分名（模様）	工学的地質区分名	色調	風化の程度	変質の程度	硬軟	コア形状	割れ目の状態	岩級区分	コア採取率 (%) / 最大コア長 (cm) / RQD [%]	記事	孔内水位／測定月日
1	169.64	0.55	S-G	礫混じり砂	茶								細砂主体。φ2～10mmの角礫を混入する。 GL-0.4mまで植物根を混入する。	12/8 無し
	169.24	0.95	SM	シルト質砂	茶								細砂主体。φ2～5mmの角礫を混入する。 GL-0.80～0.95m間は細粒分が増加する。	12/9 0.60
2	168.19	2.00	Ms	風化泥岩	黄褐	w4	h2	E	Ⅷ	d	D	CL 0[100]	風化が進行し，軟質で指圧で容易に崩れる泥岩である。 GL-1～2m間，ベネ試料やコア試料中に傾斜30度の層理面がみられる。 上位の崖錐堆積物層と本層の境界は60度傾斜している。	
3			Slt	シルト岩	暗灰	w3	h1	C	Ⅱ	c	D	26[59][100]		
						w2				b	CL			
4	166.19	4.00						B	Ⅰ	a	CM	55[98][100]	短柱状～柱状コアとして採取される。 GL-2.19m以深，全体的に硬質で，ハンマー打撃で金属音を呈する。 GL-2.2m付近に存在する傾斜50度の亀裂面が，風化し茶褐色となっている。 これ以深の亀裂面は比較的新鮮で，コアもより硬質である。	
5														
6														
7														
8														
9														

標準貫入試験

深度－N値図（0 10 20 30 40 50 60）

N値	深度	打撃ごとの貫入量	50回の貫入量	自沈時の貫入量
13	1.15	13		
	1.45	300		
50EL	2.10	50	90	
	2.19	90		
50EL	3.00	50	10	
	3.01	10		
50EL	4.00	50	10	
	4.01	10		

原位置試験　室内試験

削孔月日	削孔速度 (cm/h)	孔径・孔壁保護	コアチューブ・ビット	給圧 (MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	削水・送水量 (L/min)	排水量 (L/min)
12/7	14	66／ケーシング	打込み/打込みシュー	0	0	0	W1/0	0
	43		ダブル/ダイヤ	200	250	0	W2/5	5
12/8		66	ダブル/ダイヤ					